

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770700098		
法人名	営利法人 株式会社 メディカル・ケアサービス		
事業所名	グループホーム ミモザ園		
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 13 日	評価結果市町受理日	令和6年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症でも出来る事を維持、もしくは出来なかった事が出来る様になる支援を行っています。精神面のフォローを行い強制せず一人ひとりに寄り添ったケアでその人の想いや本当の姿が見えてくると信じBPSDが強く現れた時にも職員は入居者様の笑顔を引き出すようなアプローチをしています。脳トレや作品作りも個々の能力に応じた支援しています。その人らしく家庭で生活しているように片麻痺の方もトイレ誘導や普通浴を実施しています。

基本情報リンク先

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770700098-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和 5 年 12 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

自然豊かな環境下、天井が高く円形のホールから三方に延びた平屋建て、3ユニットの事業所である。建物内部は、広いホールから施設内部全体が見渡せ、外には豊かな自然の景観が望める。利用者は、自由に行き来することができるので、交流が深められている。ホールでは利用者が集まり、音楽や体操、ゲームにと賑やかに活動されている。周囲の壁面には華やかな合同作品類が掲示され、利用者が一針一針集中して刺繍した作品など大作も多く、出来ることの披露、達成感の共有の場ともなっている。一人ひとりの利用者の可能性や、生き甲斐に繋がる活動へ着目した支援が無理なく自然と行われている。利用者を支える職員は『みんな一緒に、育む幸せ。』の言葉通り、私たちが幸せであることが利用者の幸せにつながり、皆が家族のように暮らせることを理念としている。グループでの医療連携や研修システム・ディスクマネージメントなどにも優れた事業所でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな一緒に育む幸せ」を理念とし全職員が認識、実践に努めている。毎月棟会議で理念を確認し合う。ネームの裏にも理念を表示している	理念は職員一人ひとりのネーム裏にも表示されており、利用者との職員との幸せに向け実践がなされている。また理念に沿ったケアは毎月のユニット会議でも話し合わせ、全員での確認がなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策を行い地域の清掃活動に職員が参加している。地域の方も定期的に育てている花を園に届けてくれている	自治会に加入されており、地域の美化のため清掃活動等にも参加されている。地域の行事等も再開しているため、参加が検討されている。定期的に地域の人が育てた花や、花の苗を届けてくれるなど交流がはかられている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の理解を深めてもらおうと開催された展示会に入居者様の作品を出品、園の支援の成果を地域の方へ発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策を行い園に来園し運営推進会議を行えるようになり園での取り組み状況等を報告し話し合いのアドバイスを受けている	運営推進会議は定期的に行われ、配布の資料も分かり易く工夫されている。事業所からの報告に加え、参加者からの地域の情報や行政からの通知事項、その他相談事など熱心に話し合われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係や信頼関係を築けるように常に連絡や相談をしている。できる限り市の方へ訪問するようにしている	事務手続きで書類の提出や相談事等のため、市役所を訪問されている。また、運営推進会議等でも顔なじみとなり協力関係が深められている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の三原則を守り安易に身体拘束をしないように常に工夫した援助を行っている。全職員への周知指導の為、園内研修を年二回実施している	身体拘束委員会で毎月研修研鑽が重ねられるとともに、全職員には年2回研修も実施されている。拘束をしないケアへの工夫が図られており、人感センサー等使用する際も家族等に事前説明がなされている。また、ヒヤリハットやインシデントレポート等の分析等も行われている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回研修を行い法を厳守。職員同士で見過ごさない様に注意を払い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園には成年後見人や日常生活自立支援を受けている入居者様がおりに来園時には話をさせて頂いている。職員が情報の共有ができるように会議等で説明している。又園内研修で全職員が学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行い家族の方の疑問や不安に対して十分な説明を行い理解納得して頂けるよう支援している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染防止対策の為、サービス担当者会等電話で行う際に意見や要望を引き出せるように職員に周知している	月1回は近況報告が写真を添えてなされている。また、面会時や電話連絡時に意見や要望が尋ねられ、その際にお聞きした意見等は職員に周知検討をし、丁寧な対応が心掛けられている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟会議や担当者会議を行い問題点を話し合い意見や提案を聞く機会を設け反映させている	ユニット会議等にて、職員の意見や提案を聞く場が設けられている。管理者や代表者も会議に同席し、日頃の事務上で気づいたこと等を相談し合って、事業に反映させている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員配置を行い各自がやりがいや向上心を持てる様、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師になり一年間の園内研修計画を立て実施。職員一人ひとりの資質向上に努めている。又園外研修にも必要に応じて受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回グループの医療福祉連携会議があり、その場で同業者との交流を図りサービスの質向上に取り組めるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りで困っている事、不安な事、要望を聞き全職員間で情報を共有し本人の安心を確保できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りで困っている事、不安な事、要望を聞き安心して頂けるように対応し信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時に」必要な支援を見極めその後の展開も見据えたサービスの提供利用に向け支援対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園生活ではあるが家での生活と同じような暮らしを職員と入居者様一緒に送っている。趣味や余暇の時間を大切に支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染防止により外出外泊は出来なくなったが感染対策を行っての対面での面会やオンライン面会で家族と本人の絆を大切にしている。毎月、写真に園での生活状況を記載し近況報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止により感染対策を行って対面での面会(10分間)再開、オンライン面会も行っている。本人に書いてもらった葉書きや手紙でのやり取りも行っている	家族に暑中見舞いや年賀のはがきを送り、また手作りの作品をプレゼントするなどして喜ばれている。また対面での面会や、電話やオンライン面会の取次ぎなど支援がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや余暇の時間に交流を深めている。一人ひとりが孤立しないように配席等に留意し会話が楽しめるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからもどこかで遭遇した時にも経過を尋ね困り事や相談に応じている。次の移動先の事業所のケアマネージャーにも同様の対応を行い本人、家族を支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えや家族の方との会話から本人の想いを把握し汲み取っている。本人の希望に沿った生活が送れるように職員や家族と検討している	入居前から利用者や家族等に思いや意向が確認されている。また、入居後は、日々ともに送る暮らしぶりの中での言葉や表情からも汲み取り、思いに添えるよう努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りで生活歴等を把握しているが不十分な場合は外部提供を申請して取り寄せ公的な資料も参考材料にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定、介護記録を記録し残している。具体的には全職員が状態把握が行えるように体制を整え支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でニーズが発生すればその都度検討し介護計画書に反映させている。月一回ケアマネージャー、ユニット職員が集まり入居者様のモニタリングを行っている。介護計画は異常が無ければ三か月に一回今も対面ではなく電話で家族の方からケアプランに対する意向を聞き話し合っている	利用者の状況変更がない場合は毎月ケアマネージャとユニット職員がモニタリングをして計画の進捗状態を見極めている。介護計画は3か月ごとに見直して、感染症対策の観点から、主に電話にて家族等に意向の確認やプラン説明が行われている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実践表や介護記録に記入しニーズや問題があればその都度検討し計画見直しに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるように努めている(訪問リハビリや歯科往診等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止対策により対面で触れ合う地域資源活用協働は行えなかったが三本松高校マラソン大会の休憩場所として提供したり地域の方からお花を頂いたり入居者様に地域とのつながりを感じて頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他にも本人や家族の方の希望に沿った医療機関で受診できるように支援している	かかりつけ医は利用者や家族等の希望で決められている。協力病院はかかりつけ医より情報提供を受け、検診や往診を行っている。毎日2回のバイタルチェックなどにより、利用者の心身の状況を把握、異常時等早期対応できるよう医療機関と連携体制が整えられている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や外来受診時に病院の看護師と情報を共有し適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ感染防止対策の為、入院中に病室に入れない為、病棟スタッフや地域連携室と連絡を取り合い関係づくりをし連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前から説明を行い方針を聞き共有している。入居後も何度も話し合い地域の関係者や協力病院と共にチーム支援に取り組んでいる	入居前から利用者や家族等に事業所の方針を説明し、共有がなされている。一人ひとりの利用者がいかに重度化せずに過ごせるかを考えた支援に努められている。より重度化すると、医療機関や老人保健施設等の紹介がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療行為は出来ないが定期的に研修等で訓練を行い実践力を身につけるように取り組んでいる。各棟に対応マニュアルを壁に貼っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染防止対策の為、消防署は来園していないが園独自で年二回の消防訓練を実施。地域とは運営推進会議等で話し合い協力体制を築いている。R6. 1月に消防訓練(消防署来園にて)実施予定	定期的に避難訓練を行い、非常用の食糧3日分・非常用発電機や補助電源も備えられている。緊急時には職員を招集して対応する計画がたてられている。事業所の近くの駐車場が災害時地域避難場所に指定されている	運営推進会議等を通じての地域住民との協力体制の確立や、合同避難訓練の実施、日頃の地域の危険個所の点検など、地域との連携を通じた防災力の強化に期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけを行い尊厳を守った対応をしている	声掛けは相手を「さん」づけで呼び、二人きりでは親しみを込めて呼び名を変えることもある。一人ひとりの違いや個性を尊重して、きめ細かな触れ合いをしているようである	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように表情から本人の思いや希望を察して声掛けを行う等、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが一人ひとりのペースに合わせた強制しない介助方法を行っている。本人がしたい事を聞き希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒にその時期に合わせた服装を選びおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	禁食がある方は違うメニューで提供したり職員と入居者様を同じテーブルで一緒に食事をして終わるとテーブル拭き等一緒に片付けをしている	栄養士の献立により食材は業者が納入し、調理はユニット間で協力して手作りしている。大きなテーブルをはさみ利用者と職員がみんな揃って一緒に食事されている。心地よいBGMが流れ、会話もあり和やかな空雰囲気である。皆さんよく笑いよく召しあがられている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事摂取量や水分摂取量を記録している。医師の指示がある方の水分量や食事量も守れている。個々に合わせた食事形態を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所まで誘導し口腔ケアを行っている。本人だけでは不十分な所は介助し夕食後は義歯を外し洗浄剤に浸けて清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し各人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っている	オムツ使用者は立位が出来れば誘導して、トイレでの排泄が促されている。夜間は人感センサーも活用した支援が行われている。トイレでの排泄支援で失禁等の症状が緩和されている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け乳製品等も提供しレクリエーションや体操で運動を促している。便秘の方には個々に応じた服薬もしている。排便状況を確認し便秘予防対策を行っている	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の意思に沿った入浴支援を行っている。全入居者様が週二回は入浴できるように柔軟に対応している。入浴拒否があれば理由を探り工夫するようにしている	特浴から普通浴に上手く意欲も引出しながら変更した例もみられる。利用者の意志を確認した入浴支援が行われており、入浴に至るまで柔軟に対応がなされている。利用者は皆週2回の入浴は出来ている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて休憩時間が取れるように声掛けしている。昼夜逆転を防げるよう工夫し安心して気持ちよく眠れるように支援している	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし誰でもチェックできる体制を整えている。お薬手帳も保管している。月一回薬剤師の訪問薬剤管理指導を受けている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに趣味や特技で楽しみ事を無くさないように洗濯たみ等のお手伝いで達成感を感じて頂けるように支援している	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止対策にて園外レクリエーションや買い物等の外出レクは控えている。園内でクッキングレクリエーション等も行い気分転換ができるように考えて支援している。以前は花見、地域の行事に参加し外出支援を行っていた	感染予防のため大勢での外出は控えられているが、個別の散歩など対応がなされている。建物内の移動は自由にでき、利用者の交流も自然にできている。レクリエーション活動では運動やゲームなどで活動して、熟睡できるように気分転換にもなっている。クラフトや手芸、将棋などを集中して楽しむ利用者もおられる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は事務所で預り金として保管している。コロナ以前は買い物レクリエーションや外食レクリエーションで自分でお金を使う楽しみをもっていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを書いてもらい家族の方に送っている。入居者様宛の郵便物は本人に渡している。読めない時は読んで聞いて頂く介助をしている。電話やオンラインで話せるタブレットを使用し支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は感染防止の為、毎日掃除消毒を行い清潔保持に努めている。入居者様の作品を飾ったり生花を飾り季節感を取り入れている。窓からも庭の様子を見ると季節を感じられる	玄関を入るとホールになり、3ユニットの共有のスペースとなっている。毎朝利用者全員で体操やレクリエーション活動などを活発に行っている。壁面はポスターや大作の合同作品を掲示、季節感溢れる飾りも展示されている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビを置き一人で見たり他の方も一緒に見て過ごせる。棟の出入口の横にはホール側にソファを置き場所を変えて過ごせるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から説明しご本人の使い慣れた物、使いやすい物等を持ち込んで頂き本人が居心地良く過ごせるように工夫している	居室入り口には名札と目印代わりの写真などを貼り分かり易くしている。室内はベッドと私物の家具や電気製品があり、思い出の写真や自作の作品が飾られている。部屋は腰高窓から光が差し込み明るく、落ち着いた雰囲気となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に手摺りを設置しバリアフリーになっている。浴室にはバスグリップや滑り止めマット使用。トイレ、洗面所、風呂場にはそれぞれの場所がわかりやすいように工夫し表示している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に入る玄関や中央フロアに掲示しネームホルダーの裏面にも理念を書いたカードを入れ携帯し職員全員が理念を意識した支援をできるように努力している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の集会、地域の清掃活動や草刈りに参加している。一緒に参加した方々にお茶等を提供し地域の方々と交流が行えている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来園や電話にて施設入所の希望や介護保険の支援方法を説明したり認知症についての相談を行っている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類になり運営推進会議を再開し市職員、包括支援センター、民生委員、自治会役員、ご家族様と情報交換を行いサービス向上に努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に事業所の実情やサービスの取り組みを相談し協力関係を築くようになっている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となり年二回必ず園内研修を行い全職員に周知指導を行い毎月、施設長、各棟の代表者で意見交換している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを活用したり年二回の園内研修により理解を深め職員同士で注意を払い風通しの良い職場環境にすることで虐待が見過ごされることが無いよう心掛けている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のついで入居者が自棟にいる。成年後見制度について月テーマの研修や棟会議時に学び職員全員が理解し活用できるようにしている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明はケアマネージャー、管理者が行いご家族様には不安や疑問に対して理解、納得して頂ける様、その都度対応している
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの連絡、面会時やサービス担当者会議(現在電話連絡)時に意見や要望を引き出せるよう職員に周知している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟会議、担当者会議、ユニット長会議を行い意見交換し、問題点を話し合い反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員配置をし、各自が向上心を持てる職場環境、条件の整備に努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の園内研修の計画を立て同系列施設の看護師の講師による園内研修の開催やベテランの職員や若い職員も講師となり園内研修を実施し月一回職員の資質向上に取り組んでいる。新人職員は個々の力量を把握しながら育成に努めている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、定期的な交流はないが園外研修参加にて同業者との交流やネットワーク作りはできるようになっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や不安な事、知ってほしい事等の気持ちを気軽に話せる場を作り職員同士が情報を共有し要望に沿った支援ができる関係づくりに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が望む事、不安な事等の想いをしっかり受け止め信頼関係を深めるように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族様の要望を受け止め必要としている支援を職員同士で共有しより良いサービスを提供できるよう努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができる事を少しずつ把握し一緒に生活する中で信頼される関係になるように努めている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へご本人様の日々の暮らし方を写真に言葉を添え報告している。電話や面会時に近況報告し情報共有を行い協力していく関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	園で手芸等でのれん縫いをした作品等をご本人様より家族様にプレゼントする事で喜ばれています。園外散歩することで木・花・池等の馴染みの風景を楽しめるように支援に努めている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の合同レクリエーションや棟内でのレクリエーションを一緒に楽しみ、ご利用者様達が名前呼び合ったり支え合うような支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過をお尋ねし、必要に応じてご本人、家族様の相談・支援に対応できるよう努めている。また移動先事業所の担当ケアマネージャーにも情報共有を行い支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の訴えや想いを把握し本人の希望に沿った生活が送れる様、職員間で話し合い支援に取り入れるように努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は生活歴等を把握しご本人様や家族様より話を聴き情報を職員間で共有し経過の把握に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝昼のバイタル測定や食事量等、介護記録に記入し本人の健康状態や精神状態を把握するようにしている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で本人に発生した課題やケアのあり方についてその都度、検討し月に一度棟会議を行い評価と見直しを行っている。家族様にも見直した点を伝え意見を頂き介護計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン表や介護記録、連絡ノートを活用し職員間で情報を共有しながら実践への反映を行うように努めている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望、意向、ご本人の状態に応じたケアを行いその時に生まれるニーズに対応し記録しサービスに取り組めるよう支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防署、地域のボランティア等に協力を要請し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を受入れ適切な医療を受けられるように支援している。また協力病院には職員が他科にはご家族様に協力をお願いしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問受診時に医師・看護師等に情報や気づきを報告し指示を受けられるように支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、病院と連絡を取り情報、状況を共有し、家族にも連絡を取り状況を共有している。地域連携室も利用し関係づくりを行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者ご家族へ重度化した場合の説明を行っている。協力病院、関連施設等で状況変化に合わせ報告し指示を受けられるようにチームで支援に取り組んでいる
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全ての職員は研修等で応急手当や初期対応の訓練や勉強会を行っている。また壁や日誌ファイルにも対応マニュアルを貼り急変や事故発生時に備えている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在コロナ禍の為、消防署が立ち合う事ができていないが年二回消防訓練を行い全職員とご利用者様にも参加して頂き訓練実施を行っている。令和6年1月消防署を招き訓練予定

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。不安そうな時や失敗した時には職員が間に入り支援に努めている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の訴えがあった事や希望している事を聴き入れその思いに沿った支援を行い自己決定できるように働きかけている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の望むペースで日常を過ごして頂き個人個人がどのように過ごしたいか希望に沿って支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選んだり職員と一緒に選んだりしている。身に付けたいアクセサリーや首巻をされ季節に合ったものを職員と一緒に選んでいる
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは難しくなっているが皆で円卓に座り食事を一緒に食べる事で食事を楽しんでいる、お盆拭き等利用者様ができる手伝いを行っている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し一人ひとりの栄養バランスを確保できている。嚥下状態に応じ個々に合った形態を提供している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け見守りを行い出来ない方には一部介助、全介助にて清潔保持を行っている。夕食後には入れ歯装着の方は義歯を預かり洗浄剤を使用し口腔内の清潔保持に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し時間に応じてトイレの訴えの無い方や自分でトイレに行けない方に声掛けを行い定期的なトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らしている。自力で行える方は見守りを行いバット内確認、交換を行っている。排尿障害のある方には日中は見守りにてトイレを使用し安全に安心してできるように支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策に食事水分量を記録し把握している。レクリエーションや体操・歩行練習の運動を日課にし水分摂取を行い予防と対応に努めている。排泄表にて排便状況をチェックし服薬にて対応している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っている。利用者様の体調や心境に応じて入浴日の変更を行い支援している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠して頂くように日中はレクリエーションに参加して活動を行い昼夜逆転を防止し正しい生活習慣の支援に努めている。昼食後は個々に合わせた休息を支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬剤説明書をファイルし保管している。薬の目的や副作用、用法や用量について理解できるようにし服薬の支援と症状の変化に対応できるように努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で一緒にレクリエーションを楽しみ笑い合い個々に合ったクラフト作りやのれん縫いを行い居室に飾ったり家族様にプレゼントしたりする事で楽しむことを支援するように努めている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の流行の為、外出できていない状況です。気候が良ければ園外に個別で散歩したり車椅子の方は車椅子自走し日光浴をされています。外出に変わる楽しみを棟内で考えクッキング等を行い気分転換できるように支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて預り金として保管している。コロナ感染症の流行の為、外出できていない状況です。今後、外出可能になれば利用者様と一緒に食事や買い物に支援していきたい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に年賀状、暑中見舞いを書いてもらったり、ご家族からの手紙を自室で保管されいつでも見れるように支援している。また携帯電話が使える利用者様(1名)は自由にご家族様に連絡され会話を楽しまれている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日清掃し感染対策に消毒も行っている。利用者様と一緒に作ったクラフトや作品を飾り居心地の良い共用空間づくりの支援に努めている。また利用者様の好きな曲(演歌等)を提供し楽しまれている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	丸テーブルに利用者様それぞれの顔が見れるように座り一緒にレクリエーション等の楽しみを共有したり気の合った利用者様と隣同士で会話され楽しまれている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に作った作品や思い出の写真や縫い物を飾ったりしている。ご本人様の使い慣れた物や必要な物が見つけられるようにポーチやメガネ入れを設置し居心地よく過ごせる工夫を支援している
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広くバリアフリーで廊下やトイレ内部にも手摺りを設置し安全に生活が送れるように工夫している。トイレや浴場も場所が分かるように環境づくりに努めている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を管理者と職員が共有し実践につなげ「寄り添い家族のように関わっていききたい」そんなケアを目指している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になり感染対策を行なった上で地域の清掃活動に参加し地域の一員として交流を深めている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動の草刈りや清掃に参加し地域住民と関わることで認知症の方の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類になり運営推進会議を再開し以前と同じように民生委員や市職員、家族等の意見を活かしてサービス向上に努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の取り組みを積極的に伝え報告、相談を行いアドバイスをもらうなど協力関係を築くよう取り組んでいる
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束をしている利用者なし。研修を年2回行い内容を理解してもらい利用者様の尊厳が保持できるようできるだけ身体拘束をしないケアに取り組んでいる
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会と研修を行い虐待防止関連法を学びアンガーマネジメントなどを活用して職員の感情のコントロールを行い虐待防止に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、C棟には成年後見人の付いている入居様はいないが、必要とされる利用者様に対して関係者と話し合い活用できる様、支援している
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は利用者様や家族様が安心してできるよう十分な説明を行い納得できるよう努めている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナは5類に移行しているが制限を行っている為、電話と短時間の面会にて家族様等の意見を聞き職員に周知し運営に反映させている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く為、棟会議、委員会を行い施設の問題点の解決や改善に反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じた実力をつけてもらう為、個々の努力実績を把握して各自がやりがい向上心を持って働けるよう努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務、会議を通じて個々の力量を把握して園内研修、外部研修に参加してもらいレベルアップに努めている。環境整備に努めている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上の為、園外研修などを通じて同業者との交流を行い参考になる意見を取り入れている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想い、困っている事、不安な事、要望等、表情より汲み取ったり傾聴しケアプランの作成をしている。全職員が課題解決に努め安心が確保できる様、努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の聞き取りで困っている事、不安な事、要望等を聞き安心してもらえる様に対応し信頼関係を築いている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としている支援を見極め家族の要望から他のサービス利用を含めた幅広い対応に努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を大事にして自立支援を行い日課での手伝いを行って役割を持っていただき暮らしを共に支えあう関係を築いている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類になり制限付きではあるが面会を行ったり月毎に施設での写真を家族様に送付し近況報告を行い共に本人を支えていく関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しでも利用者様の不安を軽減出来たり気分転換になるよう制限をしながらではあるが面会やオンラインを通して関係が途切れないよう支援している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の状態を把握し状況に応じて席の配置を行い利用者同士でトラブルになったり又、孤立しないように関り支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も出会った際は関係性を大切にす 為、必要に応じて相談や支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に意向希望を確認して本人の思いを理解し、出来るだけ思いに添える様に努めている。まだコロナの制限を行っている為、困難な時は理解してもらっている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これからの施設の生活に活かせるよう、基本情報にてこれまでの生活全般に関して経過等の把握に努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの心身状態の変化に注意し職員間の申し送り記録にて現状把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの際、家族に現在の状態を説明、その上で意向を聞きモニタリングの結果を棟会議にてケアマネージャーを交えてケアプランを作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員連絡帳、個別の記録にて情報を共有し入居者様の状態の変化に応じて実施やケアプランに反映させている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月に1回のケアプランの更新の時、またそれ以外に面会等にニーズを聞き出来る限り対応できるよう努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナは5類に移行しているが制限を行っているので直接的には交流がないが警察署や消防署と協働し安全で豊かな暮らしができるよう支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院の他にも本人や家族等の希望を大切にし納得が得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の些細な変化や気になることは看護師に報告、相談し適切な受診や看護が受けられる様に支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療できる様に病院と情報交換や相談をしっかりと行い入院中は定期的に連絡をとり状態を確認し常に病院関係者との関係づくりを行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていない為、入所時重症化した場合の説明を十分に行い方針を共有しかかりつけ医との連携にて支援に取り組んでいる
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡方法のマニュアルを作成、又、研修で応急手当や初期対応の訓練を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナは5類に移行しているが制限を行っているので自主防災訓練を行い全職員が利用者が安全に避難できる方法を身につけ又、食料などの備蓄を行い災害対策を行っている。R6年1月に消防職員を招き訓練を行う予定

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を呼ぶ時や誘導の声掛け、会話中にも何気ない言葉がけで誇りやプライバシーを損ねない様になっている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から入居者様との会話の中から思いや希望を聞き自己決定を支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の性格、その時の気分や体調に合わせて一人ひとりのペースを大切に支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を行ってもらっている。また衣類はできるだけ自分で選んでもらいできない時はアドバイスを行い身だしなみやおしゃれの支援をしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼状態に合わせて食事の形態に注意して提供、又、職員も一緒に会話しながら食べ食事を楽しんでいる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示により汁物の塩分制限を行い個々の状態に合わせて食事量を決めて提供し支援している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは入居者様によって声掛け見守り介助確認を行い入れ歯の入居者様はポリデントにて洗浄し清潔を保っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事後のトイレ誘導以外に排泄の訴えがない入居者様は排泄表を活用し誘導を行い失敗が少なくなるよう支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動やレクリエーションを行い定期的にはヨーグルトやホットミルクを提供し便秘予防を行っている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある時は時間をあけたり職員が変わって声掛けしたり曜日を変更する等、本人の希望に沿って支援している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日夜逆転しないよう、日中、体操、レクリエーションにて活動を多くし夜間良眠できるよう支援している。日中も状況に応じて休んでもらっている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬剤説明書をファイル保管し職員がいつでも見れるようにしている。服薬は職員が管理提供し飲み込み確認を行っている。又、錠剤の服用が困難な入居者様には薬剤師に確認し粉碎している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基にして利用者個々にできる手伝いをしてもらったり趣味を行って気分転換の支援をしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナは5類に移行しているが制限をしている為、季節の花や木をドライブして見たり園内でクッキングを行い気分転換になるよう支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが自分で管理している利用者もいる。ほとんどの利用者様は事務所で管理している。コロナの制限をおこなっている為、外出はできていないが外出レクリエーション時はお金が使え様に支援していた
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常の会話の中で家族などに連絡したい要望等があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール棟内に季節の作品を飾り入居者様が見て楽しめる様にしエアコンで温度調整をこまめに行い快適に過ごせるようにしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での席は一応決めているが入居者様の状況により変更を行い又、気分転換の為、他棟やホールを自由に行き来できるように支援している
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには間違いのないようにドアに名前を書き居室内には自宅で使っていたタンスや小物を置き家族の写真や他に月ごとに撮った施設での写真、置物等を置いて快適に過ごせるようにしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置して各居室、トイレ、風呂場に貼り紙をしてわかりやすくし安全で自立した生活ができるように工夫している